

基礎医学委員会 IUPS 分科会(第 25 期・第 2 回) 議事要旨

(令和 4 年 4 月 8 日 作成)

日時： 令和 4 年 3 月 30 日(水) 14:30 PM - 15:45 PM

場所： Zoom を使用したオンライン

出席者： 赤羽悟美(副委員長)、伊佐正(15:00 PM まで)、加藤総夫、久保義弘(委員長)、樽野陽幸、

欠席者： 岡村康司、多久和典子(幹事)

会議に先立ち、日本学術会議の作本氏により、定足数に達し会議が成立していることが確認された。

1. 議題

(1) IUPS 「Year-of-Physiology (YoP)」と連携しての活動について

- 日本生理学会第 100 回記念大会 (2023(令和 5)年 3 月 14 日- 16 日、京都)等に於いて

- 100 回大会の大会長を務める伊佐委員から、100 回大会にて、IUPS-YoP と連携した企画シンポジウムの枠を用意していることが述べられた。

- 企画にあたる生理学会・国際交流委員会委員長、かつ IUPS-YoP のタスクフォースメンバーの、久保委員長から、YoP のテーマである "Environment and Physiology – from Molecules to Health"と、100 回大会のテーマの"Homeostasis and Sustainability" を踏まえて、Homeostasis と Adaptation to environment に焦点をあてた企画を検討中であること、100 回大会での記念式典に招待される IUPS President をシンポジウムにて講演いただくことを検討していること等が述べられた。

- IUPS- YoP タスクフォースメンバーの赤羽副委員長から、企画に学際性も求められていることが述べられ、久保委員長から、すべての条件を満たすことは困難なので可能な範囲で対応したいという考えが示された。

(2) 「持続可能な発展のための国際基礎科学年(IYBSSD)2022」に関連した活動の検討について

- 日本生理学会第 100 回記念大会 (2023(令和 5)年 3 月 14 日- 16 日、京都)

(大会テーマ: Homeostasis for Sustainability) 等に於いて

- 加藤委員、樽野委員から、IYBSSD2022 に関連した日本学術会議の会議及び活動に関する報告がなされた。

- 伊佐委員から、100 回大会に先立ち、3 月 11 日に、京都大学時計台の 500 人規模の会場で「100 年後の人類は？」と題した市民講座を開催することを計画していることが述べられた。「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022」によくフィットする素晴らしい企画であると支持する意見が多数述べられた。

2. 報告事項

メールにてその都度共有している資料を基に、以下の報告が行われ、これまでの活動を確認した。

・日本学術会議関係

(1) 加入国際学術団体に関する調査票等の提出について

- 久保委員長から、IUPS President の Julie Chan 教授の強力なサポートを得て、万全を尽くして調査票を提出したこと、その後、日本学術会議が、継続して Adhering body として IUPS に加わっていただけるかについての連絡はまだ届いていないことが述べられた。

(2) 日本学術会議における IUPS 広報用ポンチ絵の提出について

(3) 日本学術会議の「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022(IYBSSD2022)」に関する連絡会議(11月22日)について

(4) 国際ユニオン役員(役員経験者)および 日本学術会議国内対応分科会代表者等を対象としたオンライン交流会(8月2日、12月27日)について

(5) 代表派遣実施計画の幹事会による承認の結果について

-IUPS2022 コンgress(北京)に久保委員長を派遣する計画は承認されたが、結局、COVID-19 拡大の影響により、完全オンライン開催となったため、現地への派遣は無くなった。2020年、2021年、2022年と、3年続けて海外現地への派遣は中止された。

・IUPS 関係

久保委員長から、以下の報告がなされた。

(1) IUPS2022 コンgress(2022年5月7日-11日)の開催形式等について

- 完全オンライン開催が決定した。時差を考慮して、プログラムは、北京時刻の PM 15- PM 22 に実施される。

(2) IUPS2022 コンgress時の IUPS General Assembly に出席する Delegate について

- 生理学会執行部の石川理事長、平野副理事長、南沢副理事長、赤羽副理事長、IUPS 分科会の岡村委員、樽野委員の6名が出席し、次期理事や執行部の選出、IUPS2029 コンgressの開催国の決定等にあたる。

(3) IUPS 「Year-of-Physiology」の取り組みについて

(4) IUPS 「Fellow of IUPS Academy」の、今後の推薦について

- 2021年度は、日本から野間昭典名誉教授、宮下保司名誉教授の2名が選出された。2022年度は、生理学者個々による推薦を基に IUPS にて選考中である。久保委員長から、今後も、日本から一定数を選考していただくためには確実に推薦を行うことが重要であるため、2023年度以降は、IUPS 分科会にても相談の上、個人名で推薦することを検討してはどうかという考えが示された。